

# 令和2年度 広川町立下広川小学校 学力向上プラン

## ■視点1-②

### 《中期目標》自ら考え、伝え合う子供の育成

〈成果指標〉令和5年度の全国調査の標準化得点:国語105以上 算数105以上

#### 《短期目標》習得した知識を活用して問題解決を行うことができる子供の育成

〈成果指標〉令和3年度の全国調査の標準化得点:国語102 算数102 以上  
(令和3年度福岡県学力調査【中1】において、県標準化得点 国語102 数学102 以上)

## ■視点5

### 【家庭・関係機関との連携】

#### 〈取組(指標)〉

- ⑤ 家庭と連携した望ましい学習習慣の形成
  - ・めやす(学年×10分)の設定と家庭学習状況調査
- ⑤ 外部機関や地域との連携
  - ・総合的な学習等における地域人材の活用
  - ・コンピュータSAの活用
  - ・SCやSSWとの連携

#### 〈成果(指標)〉

◆質問紙調査「予習・復習」「家庭学習時間」の結果 (全国比+1.0)

## ■視点4

### 【教員の意識・指導力の向上】

#### 〈取組(指標)〉

- ③学力調査問題に関する研修
- ③週案の作成と活用による教育課程経営力の育成
- ③カリキュラムマネジメント研修(毎週火曜日実施)
- ④主題研修における書くことを重視した研究授業の実施
- ⑥小中合同研修会の実施(年3回)

#### 〈成果(指標)〉

◆質問紙調査「授業における自分の考えの記述」「問題における自分の考えの記述」の結果(全国比+5.0)

## ■視点2

### 【授業づくり】

#### 【基礎・基本の確実な習得】

〈取組(指標)〉③1時間に習得させる知識や技能を明確にし、週指導計画案に毎時間分明記して授業に臨む。  
 〈成果(指標)〉◆学期末テストにおいて期待得点(低:85%中:80%高:75%)を8割の児童が達成する。

#### 【根拠を明らかにして、自分の考えを表現する力の育成】

〈取組(指標)〉④ねらいに応じたペアやグループでの交流活動を実施する。  
 ④自分の考えを書く場面を位置づける。(各単元8割)  
 〈成果(指標)〉◆「下広小の約束」における「⑤書く」「⑥話す」項目で8割の児童が達成する。(毎月調査)

### 【学力基盤づくり】

〈取組(指標)〉①朝のスキルタイムを週3日位置づけ複数体制による個別指導、基礎・基本及び書く力の育成を図る。  
 ①習熟度別少人数授業によるC・D層への支援(3~6年算数単元末 実施率50)  
 ②教師の指導方法や児童の学び方を推進していく学力向上推進部を位置づけ、学習規律について毎月の全校朝礼で、全校児童に対して指導及び評価を行う。(毎月)  
 〈成果(指標)〉◆「下広小の約束」における学習規律(①~④)の項目(8割達成)  
 ◆スキルタイムの結果で伸びを感じる子(8割以上)  
 ◆子供が自己他者肯定感検査(肯定的回答8割)

## ■視点3

## ■視点1-①

### 全国学力・学習状況調査及び児童生徒による授業評価から見た「課題」

### 授業づくりや学力向上の取組に係る「要因」

教科	国語		算数		・国語「読む」領域が課題R1 ・算数「考え方」(観点)が課題R1 ・算数科については、特に根拠を基に説明することに課題が見られる。 ・学力低位層の児童が国語・算数ともに2割ほどいる。
	R1	R2	R1	R2	
標準化得点	125		108		
質問紙調査等	非認知的能力の中でも、特に自己肯定感や、向上心、忍耐力に課題がある。 ・自分には良い所がある (全国比-14.4) ・難しいことで失敗を恐れず挑戦 (全国比-8.1) ・諦めずにいろいろな方法を考える (全国比-7.3)				

- ①基礎・基本を定着させるための時間の確保や指導方法の工夫が十分ではない。
- ②問題解決的な学習を進めていく学び方や、話す・聞く・伝え合うといった学習規律を身に付けさせる指導が十分ではない。
- ③授業のねらいを明確化することや、学習を振り返り、知識・技能や思考力・判断力・表現力の伸びを実感させられていない。
- ④指導形態の工夫や、書くことを重視した授業の工夫が不十分。
- ⑤家庭学習の充実や関係機関との連携。
- ⑥小中が連携した指導方法の改善。

# 令和2年度 広川町立下広川小学校 学力向上プランを基にした検証改善ロードマップ

視点・目標等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
	P		D	C	A	P	D			C	A	P	D	C	A		
全国・県 学力調査等					全国学力・ 学習状況 調査 (6年生)	福岡県学 力調査 (5年生)				標準学力調査							
〈視点2〉 ○習得させる 知識・技能の 明確化 ○ねらいに応じ たペアやグ ループでの交 流活動 ○自分の考え を書く場面の位 置づけ	新型コロナウイルス 拡大防 止による 臨時休業	本時習得させる知識・技能の具体 を週案に明記	5・6 年の学 力向上 にあたる	本時習得させる知識・技能の具体を週案に明記	結果の共有	本時習得させる知識・技能の具体を週案に明記	結果の共有	知識・技能の具体を週案に明記	学期末 テストに による評価	「めあて」と「まとめ」を児童がつくる	ねらいに応じたペア学習 (フェースシールド使用)	学期末 テストに による評価	ペアでの交流活動の質の向上 (フェースシールド使用)	記述内容の質の向上	学期末 テストに による評価	書かせたい内容のモデルを提示	根拠・理由・主張の3つの点から記述
〈視点3〉 ○全校朝礼に おける学び方 の指導		毎月の全校朝礼(校内放送)で 計画的に指導 全職員で共通理解		毎月の全校朝礼(校内放送)で計画的に指導 朝の会で確認→帰りの会で評価		毎月の全校朝礼(校内放送)で計画的に指導 朝の会で確認→帰りの会で評価											
下広小の約束(11箇条)→全校児童 毎月調査→全校朝礼で評価→1ヶ月の目標設定																	
〈視点4〉 ○カリキュラムマ ネジメント研修 ○研究授業	・基本的な学習過程 ・1学期の単元の確認・調整 ・児童の実態把握	・国語科における板書 ・人権・同和教育の学習過程 ・児童の実態把握	・学期末テスト分析	・全国学力学習状況調査 自校採点	・2学期単元の確認・調整 ・全国学力テスト自校採点結 果分析 ・県学力テスト自校採点	・研究構想提案授業 ・道徳科における板書 ・書く力を育成するノートの指 導	・授業研究 ・基礎学力の定着のさせ方 ・授業における比較のさせ方	・授業研究 ・3学期単元の確認・調整	・授業研究 ・学期末テスト分析	・短縄跳びの指導法 ・3学期単元の確認・調整	・授業研究 ・来年度の研究構想作成 ・学力テストの結果分析	・来年度に向けたカリキュラム の修正 ・児童の実態把握 (次年度への申し送り)					
〈視点5〉 ○家庭と連携 した取組 ○外部機関や 地域との連携	・家庭訪問	・いじめ・不登校アンケート (保護者) ・学校新聞及びホームページによるいじめ防止基本方針の周知	・広川町学校教育説明会			・学校訪問に向けて	・いじめ・不登校アンケート (保護者)	・PTA教育講演会		・広川町運営協議会 ・いじめ・不登校アンケート (保護者) ・学級懇談会							